

2015（平成 27）年度市民活動サポートセンター業務・協働管理運営
運営協議会評価集計

（12 人/16 人※運営当事者である指定管理者及び市民活動支援室所属の委員を除く。）

第 2 期後期（2013 年度～2015 年度）の最終年度にあたり、2014（平成 26）年度に引き続いて、指定管理者のさいたま NPO センターの 5 年間の事業計画に基づいた評価基準により評価を行いました。この集計は、項目ごとに、利用者アンケート、指定管理者とさいたま市市民協働推進課の自己評価などを基にして、運営協議会委員が「◎○△×」の 4 段階（◎：優れた成果あり、○：成果あり、△：不十分な成果に留まった、×：成果なし）で評価し、コメントした結果です。

（集計の見方）

- 異なる判断基準を有する各委員の評価結果を尊重するため、点数化せず、「◎○△×」それぞれの人数を示しました。
- コメントも各委員の意見を尊重し、統一的にまとめることはせず、内容により「成果」「問題」「課題」「希望」「提案」に分類し、複数の類型が当てはまるコメントには、その組合せで整理しました。

1-1	活動の翼をひろげる（市民の意識の向上と活動のひろがり）	
①	潜在層（関心のない市民）の意識の啓発につながったか。	◎12
②	関心層のニーズに対応し、活動の理解や参加意識を高めたか。	◎11○1
③	運営や事業は、活動層のニーズに対応し、活動支援や成長を促進したか。	◎10○2
④	潜在・関心・活動各層相互の交流と活動のマッチングを促進したか。	◎7○5
⑤	遠方の地域の市民や団体のニーズに対応する工夫や姿勢を示したか。	◎6○6
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 （◎○△×）
<p>【「①潜在層の意識啓発」について】 （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動とは無縁とも思えるような、様々な相談や苦情が持ち込まれているが、それらに対し、やり過ぎともいえるような丁寧で誠実な対応をしている。決して杓子定規な対応をしない。このことは、市民活動には日頃余り縁のない人々にとって、市民活動とはどういうものか、どういう性格のものなのか（つまり市民そのものが主役であるということ）、ということを理解させるのに資するものがあつたと考えられる。 ・自習目的利用者である高校生等に対し、市民活動スペースを「不当に」占有している「迷惑」な存在にとらえるのではなく、むしろそこに来ていることを活用して、市民活動へのいざないをしている点は、評価できる。 ・「消しゴム消しカス入れ」などは良いアイデアであるが、高校生からそうした提案が出てきたことそのものがすばらしい。高校生をサポセンに「参加・参画」させることに成功しているといえる。 ・「通りすがりの市民」への個別対応にも「潜在層対応である姿勢」が貫かれていた。 ・未来くるワークを受け入れによって、中学生に市民活動の意義が伝わったと思う。 		◎11 ○1

- ・「カシヤット撮ってドキッと発見」の写真ワークショップで啓発できた。
- ・夏の交流イベント、春のフェスティバルではボランティアの参加や小学生が興味を示して自ら参加するなど、潜在層が参加しやすい企画になり、啓発につながっている。
- ・意味合いがそれていると思うが、直営化にあたり、本論とは別の意味での注視のなか、普段の日常業務とともに、さまざまな問い合わせや相談など、その業務は膨大であったと思う。そのようななかで、適切で丁寧な運営をされておられたと、一言記載させていただく。

（成果・課題・提案）

- ・出前セミナーや他市からの視察受け入れなど、積極的に取り組んだことは認められる。ただし、その活動の成果が市民に広く知られていたかどうかについては課題である。今後さらに積極的に出前セミナーなどに取り組むと共に、その成果を当該地域のみならず市内全体へ伝えていくことが求められよう。また、高校生から「消しゴムのカス入れ」の提案があったことは、小さいことではあるが、潜在層の意識の向上の現れの一つといえる。

【「②関心層のニーズ対応」について】

（成果）

- ・「ロゴマーク展」をとおして、市民活動にかけるメッセージを提供できた。
- ・夏の交流イベントでは多くの親子の参加があり、潜在層の意識啓発につながった。
- ・夏冬の交流イベント・コムナーレフェスティバル等、イベントを核に活動層に対しそれぞれの支援活動やマッチングをおこなった。

【「①潜在層の意識啓発」「②関心層のニーズ対応」について】

（成果）

- ・写真展における写真技術団体や、コムナーレフェスにおける諸団体など、それぞれの団体が得意とする技術や分野が発揮できるイベントは、そうした団体の活躍の場を与えるものであり、さらなる活動の活発化を後押しするものである。こうした参加団体が得意技を発揮できる場の設定は、どういう団体があってどういう得意技を持っているかを、サポセン側が把握していてこそできることであろう。ただ単に「登録」させているだけではそれは不可能で、活動している人と人とのつながりがあってこそ可能であろう。
- ・スタッフの経験と研鑽による窓口対応や利用者への働きかけが大きな効果を生み、奏功し関心層の参加が広がっていることは大いに評価する。

【「③活動層のニーズ対応」について】

（成果）

- ・夏冬の交流イベント・コムナーレフェスティバル等、イベントを核に活動層に対しそれぞれの支援活動やマッチングをおこなった。
- ・コムナーレフェスティバルは、団体同士の交流を深め、各団体の企画・実行力の強化につながった。

【「①潜在層の意識啓発」「②関心層のニーズ対応」「③活動層のニーズ対応」について】
(成果)

- ・①②③の共通として、各事業及び特にコムナーレフェスティバルは、多くの市民団体の参画を得るだけでなく、さいたま市CSRチャレンジ認定企業の参画を得て、あるべき市民活動の意識・関心の向上を喚起し、登録団体も成長してきており、年々実施内容の充実が図られている。

【「④三層のマッチング促進」について】

(成果)

- ・市民活動サロン、展示企画により、市民と市民活動団体の交流の場ができた。
- ・夏冬の交流イベント・コムナーレフェスティバル等、イベントを核に活動層に対しそれぞれの支援活動やマッチングをおこなった。
- ・コムナーレフェスティバルは、幅広い層を対象に実施され、潜在・関心・活動各層相互の交流が図られた。また、協働フォーラムのプレ企画の「つながりたい展示」は、協働相手探しの良い機会となった。
- ・3つの交流イベントは全部の層に向けて効果的であったと思う。

【「②関心層のニーズ対応」「③活動層のニーズ対応」「④各層の相互交流」について】

(成果)

- ・企画、イベントへの参加市民、参加団体を主体者としてその活動が進むよう、異業種な団体等とも連携できるような、あらゆる機会に情報を提供し、また、市民団体が必要とする内容の講座などを開催され、優れていたと思う。

(課題)

- ・成果を定量的に表現できる方法が欠けていた。⇒結果として議会からの指摘への「反撃」の弱さに。(以前指摘した自分自身も反省)

【「③活動層のニーズ対応」「④三層のマッチング促進」について】

(成果)

- ・市民活動サロンは、実際に行われている様々な市民活動に光をあて、それらの活動を明らかにするものと言えよう。それぞれのサロンを出発点として、活動が展開していく例が見られる。たとえば、「大家さんと考える、地域の居場所づくり」は、サロン参加者同士のつながりが生まれており、コミュニティカフェ事業を今後さらに育てるのに資するものとなっている。
- ・「大家さんとともに地域の居場所づくりを考える」機会が提供できた。
- ・コミュニティカフェについては、調査事業（成果シート P39）と連動するものとなっており、成果報告書の刊行も、この事業の今後の展開を後押しするものであろう。
- ・チラシコンクール・ロゴマーク展・ぐるりパネル展は活動団体の広報のブラッシュアップになる企画だった。

【「⑤遠方地域のニーズ対応」について】

(成果)

- ・利用者懇談会を各区の市民活動ネットワークと連携して開催できた。

- ・利用者懇談会を出前方式で実施したことで、各区で活動する団体や、何よりも区役所コミュニティ課職員との連携・協力する可能性が拡大した。
- ・利用者懇談会が各区に出かけて現場で市民活動団体と交流を図ったのは素晴らしい。
- ・出前講座とともに、出前利用者懇談会として岩槻をはじめとする遠方の潜在層であるコミュニティネットワークに働きかけたのは大きな成果である。
- ・「利用者懇出前開催」はスタッフとの協議の結果でありセンター事業実績と思う。

(希望)

- ・利用者懇談会は意図を明確に出前とし各区で開催できたことは、年間予定のなかで未開催の地区はあるが、市サポセンからは遠方である地域への取り組みとして、今後も継続した取り組みとしていただけるよう期待する。

【③活動層のニーズ対応】「④三層のマッチング促進」「⑤遠方地域のニーズ対応」について】

(希望・提案)

- ・市民活動支援室が市民協働推進課に昇格したことにより、サポセンのミッションもシフト(＝進化)し、より一層まちづくりや協働における市民のパートナーシップ、まちづくりの担い手としての市民活動団体への支援を強化することが望まれている。市民の自由で自主的な活動であると同時に、市民活動に求められる「まちづくりの担い手」としての自覚(責任)と参加(貢献)を誘導するような積極的な働きかけが期待される。地域のまちづくりの課題を把握し、具体的な成果を期待できる支援が必要である。

【全体的なコメント】

(成果)

- ・本年の基本目標である「市民活動の強化・連携と拡大」となる各事業は、それぞれ素晴らしい成果を上げている。その基となる企画から実行・レビューまでの各フェーズでの取りまとめ手法は、当センターの特徴・ノウハウであり、他の同様な市民活動センターが、決して出来ない程の企画力・活動力である。

(成果・課題)

- ・各種イベントを多角的に行った。コムナーレフェスティバルは盛況で、施設間の相互理解と連携に役立った。また、参加した団体や市民間の交流も図れた。一方、参加者の広がりや盛り上りに一部課題が残ったものもあるのでは？

(課題)

- ・今回の問題に対して「利用者意見の力」が醸成されるまでには至らなかった。
- ・活動支援として、団体、個人ともに、単発的な企画などを経て、交流から連帯、連携した活動につなぐことは、継続した課題であると思う。

(提案・希望)

- ・ネット環境について、情報の提供、受信等の問題だけでなく、基本的なハードとして必要であり、設備がさらに充実するよう、お願いしたい。

I-2	公益の翼をひろげる（市民活動支援の輪の拡大）	
大学、公益法人、生協、労働組合、営利セクター等と連携したか。		◎10〇2
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 (◎○△×)
<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け入れた大学のインターン生は、市民活動支援施設の役割や機能を学び、更に「協働の推進を考えるヒアリング」等、実社会で活動する際の貴重な体験をされたと考える。当然ながらインターン生は、これらの経験から今後の市民活動推進者となるであろう。また、「未来くるワーク体験受入事業」（さいたま市教育委員会・学校との連携）は、中学生の市民活動への関わりとして新聞発行等、体験をまとめられていることに共感を得た。 インターンの受け入れ、ボランティアの参加などで大学に働きかけて成果を出している。企業への働きかけも積極的に行われ、イベントへの参加、協力が得られ公益についてともに学ぶ姿勢がみられた。 冬の「協働を考えるフォーラム in さいたま」は、企業を含む様々な主体の参加があるとともに、サッカー応援という一般市民に親しみやすい切り口で開催され参加と相互理解が深まったと思う。 企業との連携が進んでいることは、市民・市民活動団体側にとって心強いことであるが、企業側にとっても、これからの「地域社会とともに歩む企業のありかた」として望ましいものである。 地域の交流点であるコミュニティカフェの企画展示、調査報告。 協働フォーラムのポスターと自治会掲示板に貼り出すことが行政のバックアップにより実現した点は良かった。また、イベントを通じて“協働”について多くの市民（参加できなかった人を含め）が考える機会を持てた。 コムナーレフェスティバルや協働フォーラムなどにおいて、各種セクターとの連携がなされた。 <p>（成果・課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害支援や、復興への取り組み、その報告やパネル展示など、活動を発信していく場が、たくさんあり、つながりを感じることができた。更に、日頃の異業種間の連携は、フェスティバル実行委員会の記録にもあったが、補完できること〔強み〕は何か、地域課題のなかで課題解決のために何を共有し個々のPRも含め協力のお願いや、理解を一層広げるために、参加への仕掛けも含め、継続した話し合いが課題だと思う。 <p>（成果・提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の交流イベント、冬の交流イベント、コムフェス等等それぞれ民間セクターの顔が見えた企画が多く着実に前に進んでいる。市民活動に関心のある民間セクターを中心とした企画を開催出来るとよいと思う。 <p>（成果・希望）</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンの受入れ、調査協力、営利セクターの社会貢献意欲に呼応した連携は大いに評価する。機会を提供するだけでなく、営利セクターから学ぶことも多いと思われるので、一層の協力連携を望む。 協働を考える調査にて、CSRに取り組む企業・地域の商店会との連携を進めている企業・公益財団に参画を依頼し、協働に係る調査分析、イベント企画・運営をおこない、「協働を考えるフォーラム」にて市民と共に協働について考える機会を作ったのは非常に評価できる。又、コムナーレフェスティバルにおいてCSR認定企業が参加し、市民活動団体とのきっかけ作りもおこなっており、今後の発展が楽しみである。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働組合との連携は、方針にうたっているものの、成果はなかった。 		◎10〇2

I-3	連携の翼をひろげる（市民活動支援の重層的な展開）	
①	コミュニティ関連施設との連携により市民活動支援の地域展開が促進できたか。	◎4○7△1
②	県内の市民活動支援施設との連携を通して人的交流が図れたか。また、他の市民活動支援施設の課題やニーズから支援のあり方を学んだか。	◎5○7
③	行政や地域の専門機関との連携を促進したか。	◎7○5
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 (◎○△×)
<p>【「①コミュニティ関連施設との連携」について】 （成果） <ul style="list-style-type: none"> ぐるりパネル展・チラシコンクール・コムナーレフェスティバルなど定着できている。 武蔵浦和コミュニティセンターでチラシコンクールを開催できた。 （成果・課題） <ul style="list-style-type: none"> 展示企画を通じて各館の職員や利用者との関係作りの活動は評価できる。しかし、来年度以降、各館との連携が取れるのか、心配。 浦和コミセンでのイベントは、出向いての連携事業として評価できる。サポセンでの連携事業も重要だが、外へ出向いての連携事業をもっと展開させる必要がある。そうでないと、いつまでも「浦和区のサポセン」であり、「さいたま市のサポセン」として認知されないだろう。 （課題・問題・提案） <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ関連施設として公民館も仲間に入れることが一向に進んでいない。地域という捉え方をすると、公民館が地域の拠点となっていることから、十分に戦略を練る必要がある。 コミュニティ関連施設だけではなく各区のコミュニティ課との関係が希薄。 利用者懇談会での聞き取り等でも、支援の質や量の違いが見られた。地域課題や歴史(?)の違いもあるが、担当職員との関係、コーディネーターの適切な関与によって、より効果的な支援が行えると思われる。特に、地域のコミュニティ関連施設の職員間の交流や情報交換、連携による切れ目ない支援が求められる。 （希望） <ul style="list-style-type: none"> 連携支援強化プロジェクト、3つのコア機能を活性化とした取り組みなど、地域力の向上をさらに、ひろがるように展開していただければと思う。 【「②県内の市民活動支援施設との連携」について】 （成果） <ul style="list-style-type: none"> スタッフ研修会において学習と交流の場を提供した。 県内外の市民活動支援施設スタッフとの研修を開催し、人材交流が深められたのは良かった。 県内外の支援施設の手本となり指導できている。 県内外の類似施設のスタッフ研修などを通して、情報交換がなされたとともに、サポセンの域外での認知度、注目度が高まった。 （成果・課題） <ul style="list-style-type: none"> 継続すべき有意義な企画であるが、本年度は「問題」に正面から取組めたか？ （成果・希望・提案） <ul style="list-style-type: none"> 県内外のスタッフなどとの交流連携が進んでいることは大変評価できる。県内関連施設間のネットワークの拠点となることは、さいたま市のみならず、埼玉県、ひいては全国の市民活動の発展に資するものであり、ぜひ充実させてほしい。「さいたま市」 </p>		◎6 ○6

の市民活動のサポートがサポセンの主たる役割であるが、県や全国レベルでの市民活動の発展は、さいたま市の市民活動の発展につながるものである。

【「③行政や地域の専門機関との連携促進」について】

(成果)

- ・地域連携のコーディネート事例に学ぶ企画ができた。
- ・「協働を考えるフォーラム in さいたま」において、社会福祉協議会の参加があったこと、「あつまれおやこ」に看護師や更生会の参加・協力を得られたことなどが良かった。法務専門家の協力を得て相談会を定期に開催できたことも評価できる。
- ・協働フォーラムを通じて、社会福祉協議会に関する理解が深まった。

(成果・希望)

- ・市内 10 区のコミュニティ課への働きかけを積極的に行い、サポセンとのパイプができてつつあるのではないかと。サポセンの存在を知らしめることはできた。来期も継続し、遠方の団体がコミュニティ課を介して、サポセンのセミナーやイベントにつながるようになればよいと思われる。

(成果・提案)

- ・自治会との連携や、自治会活動の支援も行ったと聞いている。そのことも明記してはどうか。「震災・お金・暮らし相談会」は、継続的な活動として評価できる。市民活動サロンなどは、地域で活動する様々な団体を掘り起こし、光をあて、活動を活性化させるはたらきをしていて、評価できる。

【②「県内の市民活動支援施設との連携」「③行政や地域の専門機関との連携促進」について】

(提案)

- ・企画協力、連携、交流、合同研修などで、積極的にインフローを増やすべきだ

【全体についてのコメント】

(成果)

- ・ぐるりパネル展、チラシコンクールの開催等を通じて、関連施設とのつながりが拡大、また、施設職員の研修を通して、質の向上も図られつつあり評価したい。

(成果・課題)

- ・コミュニティ関連施設や職員との相互理解・連携及び社会福祉協議会の職員や地域社会福祉協議会の訪問等で、市民活動の推進が深まったことは評価できる。但し、自治会との連携は、市民活動の元となりますが深まっていない。自治会対応を私（地域住民と共に）も地域のごみ問題・自治会掲示板等で、自治会長と折衝したが、自治会の旧来体質を打破できなかった。自治会の体質改革が必要で、一つには難しいが自治会長含む理事の若返りが求められる。

(成果・希望)

- ・地域の力を引き出せ、他、公共マネジメントの講座等、市内、県内、県外から、行政、市民センター、NPO、生協、と多くの参加があり、課題への取り組み事例、地域のニーズの分析、連携促進や、運営に生かしていくことが学べた。今後も、専門機関との連携を強め、当事者が活動しやすい場、団体を支援するために重要な政策としてその促進を強めるよう、期待している。

(課題)

- ・センター側の努力に見合った手ごたえは不十分であった。

I-4	協働の翼をひろげる（市民と行政のそれぞれの役割を深める）	
①	業務や施設運営において、市民協働推進課との情報共有に努めたか。	◎1〇8△2 ×1
②	業務や施設運営において、行政各部署との協働推進を図ったか。	◎1〇10×1
③	上記項目で生じた協働の問題に取り組んだか。また、政策提言を行ったか。	〇8×4
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 (◎〇△×)
<p>【「①情報共有」について】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民と行政の協働のモデル拠点として、相互の立場や任務を理解することができた。 指定管理者は常に推進課に行政としての取り組み方を提案していた。 合同研修（市職員と指定管理者職員）や、協働を考えるフォーラムへの参加は良いことと思う。 <p>（問題）</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートセンター職員の声にあるように、結果としてこれまでの8年間を守れなくしてしまった。 <p>【「②行政各部署との協働推進」について】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢福祉課、環境課、障害福祉課、コミュニティ推進課に働きかけ、協働が進められていた。協働が実現できなかった部署ともフォーラムやアンケートにより協働を考える働きかけができていた。 みどり推進課、環境総務課、水道局等ポスター展示が開催できた。 さいたま市が「協働」の先進市として認められたことは評価できる。 <p>（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働フォーラムにおいて、最終的に、障害福祉課の参加が得られたが、市職員の参加は限られた。 <p>（希望）</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政各部署との協働推進→広がり工夫をお願いしたい。 <p>【「①情報共有」および「③協働の問題への取り組みと政策提言」について】</p> <p>（問題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民活動支援室」から「市民協働推進課」への昇格（？）の前提となる施策方針の変更、管理運営要領の変更、議会の要請による調査など、サポセンや市民活動支援に関わる重大な事項について、話し合うことはおろか知らされることなく、また、根拠のない指摘への反証の機会も提供されず、「協働」の前提となる「情報共有」が全くなかったことは、由々しきことであり、非常に残念である。改善を求めたい。 <p>【「③協働の問題への取り組みと政策提言」について】</p> <p>（成果）</p>		〇8 △3 ×1

- ・市民活動支援の多様なニーズに対応するため、スタッフ研修を企画し、情報を共有できた。

(課題・問題)

- ・議会の動向に対する対応は「市民協働運営」の視点からは残念だが不合格。
- ・サポセン条例変更により、協働管理運営のモチベーションが低下した。
- ・指定管理者は政策提言を行っていたが行政側が協働の姿勢を示さないのが残念である。

【全体についてのコメント】

(成果・問題)

- ・イベントなどにおける行政各部署との協働推進については評価できるが、市議会の言いなりになった市民協働推進課にはついては、がっかりだ。市民協働推進課がとった行動は、議会の御用聞きであり、市民活動を蔑ろにする行為である。
- ・市民協働推進課職員及び各行政部門含め十分な協働体制がはかられ、協働推進は促進されていたと思っていた。しかし、当評価の担当部門は、市民協働推進課だが、さいたま市議会への対応について残念な結果となり、さいたま市議会によって、協働を推進する市民活動を阻害してしまった。
- ・スタッフレベル、組織レベルのいずれにおいても、この二年間ほどは、協働の姿勢が高まっていたと感じており、高評価をしていた。しかしながら、6月の管理運営要領の「改正」や、9月の議会対応などにおいては、「協働」の精神が全く見られないものとなっており、大変残念である。

(課題)

- ・市民活動団体との協働に関する市職員アンケート結果等をみると「協働マインド」が着実に行政側に浸透しているとは評価できない。

(問題)

- ・行政がセンターに登録している市民活動団体に根拠もなしにヒアリング調査をかけることを、管理者としても、運営協議会としてもストップすべきだったと思う。行政当局はもとより、管理者、運営協議会は、自由な市民活動を守る責務があったのにそれができなかったことは残念。
- ・「政策提言」については、たとえ、指定を受けている「指定管理者」であっても、行ってよいと考える。サポセンの活動自体が、「提言」であるともとれるが、もう一歩踏み込んで、きちんと文章化しての「提言」を行うべきではなかったか。

II-1	協働管理運営の仕組み	
①	運営協議会は、市民と行政の協働により運営され、市民の意見を反映させたか。	◎204△3 ×3
②	利用者懇談会は、参加した市民の意見を運営協議会に諮ったか。	◎9○3
③	連絡調整会議は、市民の意見に迅速に対応し、業務や運営に反映させたか。	○4△3×5
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 (◎○△×)
<p>【「①運営協議会」について】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月議会の議決「サポートセンターの条例変更」を受けた2016年4月からの行政直営に向けて利用者懇談会を開催した。 ・臨時の協議会も含め、即時性のある事柄に迅速に、丁寧に対応、議論し評価の公表とともに、できたと思う。 ・運営協議会はサポセンを利用する市民はもちろん、一般市民目線でセンターの運営を評価すべき役割を担っており、指定管理者と異なる意見も当然有り得る。多様な意見も亦市民意見の反映。 <p>（成果・課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポセン管理運営要領及び条例の変更に対して、運営協議会有志として、市長及び市議会議長に質問状・要望書を提出し、また、サポセン条例変更にともない、団体登録や利用などについて評価を行ったが、条例変更を覆すほどの市民の動きをつくることはできなかった。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時利用者懇談会において、運営協議会の存在、役割、理解が不十分であった。 ・協議会の努力が結果としては重要な事案については反映されなかった。 ・運営協議会は、サポセンの「運営」について「協議」する組織として存在するが、9月議会以降の状況を鑑みると、その機能を十分に発揮したとは言い難かった。 <p>（問題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務繁多とは言え、評価部会、利用者懇談会部会、利用者懇談会に、行政職員が参加しなかったことは前代未聞であり直接対話の機会を蔑ろにする態度で容認できない。 ・サポセン管理運営要領及び条例の変更に関して、事前に何らの相談や意見聴取がなされず、何事も相談するという協働管理運営の基本姿勢がないがしろにされた。 ・運営協議会の存在意義や役割について、市民や議会などで理解されていないことが明らかになった。 <p>【「②利用者懇談会」について】</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各区市民活動ネットワークとの連携による出前懇談会として開催できた。 ・出前方式というアプローチに可能性を感じる。区のコミュニティ課職員の理解促進につながる。 ・利用者懇談会は各区に出張し、市民活動団体との積極的な意見交換により市民の声を集めた。 ・各区に出張して、利用者懇談会と持つ等努力した。内容も詳しく運営協議会に諮った。 ・利用者懇談会は、市民活動ネットワークとの連携により、各区へ出向き懇談会を行い、市民活動の多くの貴重な情報と意見を集約できたことは評価できる。 ・サポセンのイベントにデスクを設け、各区のコミュニティ関連の連絡会議に利用者懇談会を出前するなど、斬新な発想で、利用者意見の収集に努めたこと、条例改正につ 		◎1 ○6 △2 ×3

いて、利用者懇談会を開催したことは評価できる。

(成果・希望)

- ・出前開催・臨時開催等、例年に比して多くの工数をかけて利用者意見収集とセンターの認知度向上に努力した。特に出前開催は是非継続してほしい。
- ・直営化の動きのなか、多くの市民、団体からの不安の声に、今後の協働管理への意見を利用者懇談会のなかで集約し、協議会で議論し提言に務めたと思う。また、出前利用者懇談会は意図を明確に6区で開催できたことは、市サポセンからは遠方である地域のニーズ把握となり今後も継続していただけるよう期待する。

(成果・問題)

- ・利用者懇談会は、積極的に意見をすいあげ、運営への反映をはかった。その点は評価できる。しかし、条例改正に関わる事柄については、集められた意見がさいたま市との姿勢や施策に活かされることはなかった。

【「①運営協議会」「②利用者懇談会」について】

(成果)

- ・利用者懇談会は、当初予定の2倍開催し、出前懇談会も実施したことにより、サポセンと各区のコミュニティ課とのつながりが形成された。それに加え、サポセンの直営に関する利用者懇談会も実施し、利用者意見の把握に努めた。

【「③連絡調整会議」について】

(成果・課題)

- ・サポセン条例変更後、連絡調整会議において、利用者意見などの情報共有がなされたが、協働意識が低下した。

(問題)

- ・窓口寄せられた条例改正に関連する意見などに一切回答がなかったことはとても残念だ。質問と回答を館内掲示するなど、利用者の声にこたえる姿勢が欲しい。
- ・連絡調整会議の情報は守秘義務もあるだろうが、運営協議会では情報が少なかったのは否めない。うまくいっていると思っていたのが逆転してしまった。落胆した。例えば、運営協議会の委員の自治会運営者の欠席について、どんな話や手立て、改善が考えられていたのだろうか。
- ・協働の支援は、どのような場面でも、それらの情報を生かせるよう発信・受信が何より重要である。調整会議が十分に機能していたかが知らされることがなかったことを残念に思う。
- ・協働管理運営の仕組みは壊された。
- ・信任を受け調整会議を行っている点を忘れないでほしい。相手の非を論ずる前に謙虚に自らを反省することも大切だと思う。
- ・条例改正に関わる事柄については、全く機能しなかった。

【全体についてのコメント】

(成果・課題)

- ・市民活動団体からの意見の内容を制限して反映しきれなかった。指定管理制度から直営に変わることに疑問・反論の声が多く上がっていたが、混乱を避けるという配慮により吸い上げることができず、悔やまれる。いまだに疑問・反論の声は聴かれる。市民の声が行政や市議会に届かず、運営に活かされなかった。直営にあたっての要望を吸い上げ次期の直営管理課に伝えることができたのはよかった。

(成果・問題)

- ・「運営協議会」「利用者懇談会」「連絡調整会議」が、サポートセンター条例の基、本年目標「市民活動の強化・連携と拡大」へ連携し、十分機能していたと思っていた。しかし、さいたま市議会の一方的（運営協議会・利用者団体等含む関係者へのヒアリング無し）な議員提案により、H28年度より直営化になったことは、さいたま市議会が、市民活動を阻止・サービスレベルを著しく低下させていくことになる。

(問題)

- ・市議会にて市直営決定後の協働管理運営の仕組みは崩壊し、利用者懇談会や運営協議会の意見や質問が反映されない状況になってしまった。
- ・行政が運営協議会や利用者団体に諮らずに直営化の手続きを進めたのは、今までのさいたま市行政が築いてきた市民協働の取り組みの蓄積を台無しにする行動であったと評価されても仕方がないと思う。

II-2	行政の指定管理者との連携	
①	各所管課から市民活動サポートセンターへの相談に対応し、各所管課と市民活動団体との連携をサポートしたか。	○7△4×1
②	各所管課に対して、市民活動サポートセンターのイベント等活動内容を広めたか。	○8△3×1
③	各所管課が事業に係る展示等で市民活動サポートセンターを利用する際にセンター設置目的等について理解するよう説明を尽くしたか。	○4△4×4
委員のコメント（提案・意見等）		総合評価 (◎○△×)
<p>【「①各所管課と市民活動団体との連携サポート」について】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体や各所管課からの相談に対して、協働のテーブルを開催し、協働事業につないだ。 夏の交流イベントにおいて教育委員会後援のための所管課との調整や、指定管理者との協働のテーブル開催等、努力の跡がみえる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> マッチングファンドの企画立案プロセスの実態をみると、まだまだサポセンのサポート・コーディネート機能活用の余地がありそうに思う。 <p>(問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 消極的な取り組みに終始し、各所管課とサポセンとを積極的につなごうという姿勢は見られない。 <p>(希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、協働のテーブルが開かれたとある、どのような内容であったかと思う。イベント等への所管の支援など、もっと市民に知られるようになるとういと思う。 <p>【「②各所管課へのイベント等活動内容の広報」について】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント情報ポスターについて、各自治会の掲示板へ掲示することができた。 サポセンのイベントポスターについて、自治会掲示板への掲示のための所管課との調整努力は評価できる。 <p>(成果・課題・希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント情報を庁内 LAN の掲示板に掲載し情報発信したのは評価できる。今後は、多くの市職員がボランティアやイベントに参加したくなる仕掛けを作ってほしい。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内部署のサポセン利用が増えた印象がない。 協働フォーラムへの市職員の参加が少なかった。 <p>【「③設置目的等の説明」について】</p> <p>(成果・問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置目的等について、議会や社会に対して説明をした。その基本姿勢は認める。しかし、それを伝えきることはできず、かえって「市民活動支援」や「協働」にとって「負」となる結果を生んだ。 <p>(希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各所管課から積極的参加が望ましい。 		○4 △7 ×1

(課題)

- ・組織変更により人も変わった等の変化もあったが、相互に立場を理解し合うことが前進の鍵。

【全体についてのコメント】**(成果・問題)**

- ・管理運営要領に市民活動団体が指定管理者となると定められていたのには、それ相応の理由があったはずで、市民活動のサポートにおいて、それが大きな役割を担っていたのは、容易に想像できることである。新しく市民協働推進課に引き継がれた時点でその点について理解をしていたならば、市長から条例改正についての話が来た時に、改正を止めることはできたはずである。市民との協働・市民活動の推進についての理解ができていなかったと考えざるを得ない。次年度の準備に忙しい中、市民の声にこたえ、説明会を催した努力は評価されると思う。
- ・各所管への対応は、それなりに十分活動できていたと思う。しかし、さいたま市議会や各サポートセンター関連部門への対応力不足により、さいたま市議会が一部の団体活動評価により、時代に逆行するH28年度よりのサポートセンター直営に繋がってしまった。

(課題・希望)

- ・出前方式の利用者懇談会で各区の差（職員の意識・意欲）を感じた。しかし、サポートセンター職員だけでなく、委員が市民活動ネットワーク協議会に市民目線で働きかけることによって、区における職員・サポセン・活動団体の連携・協力を促す事例もあり、やり方次第である。
- ・たまたまかもしれないがコムフェスでのCSR企業出展に対する行政部門の対応に企業側からも疑問の声が上がっていた。行政にはより円滑な支援を望む。

(問題)

- ・各所管課が市民活動サポートセンターをうまく活用したと感じない。県外からも多くの視察の方が見えているのに、さいたま市職員がサポートセンターの重要性を理解していないように感じる。
- ・自由な市民活動の場を守る、という基本的な役割を果たせなかったということは、行政、指定管理者、関係する我々市民の成熟が不足していたといわざるを得ず、残念に思う。
- ・議会対応に追われ、本来業務が影響を受けたとはいえ、「協働」を推進する本市において、まさにそのことが問われていた今年度、議会（委員会）において与えられた少なからぬ答弁機会を捉え、「市民」と「行政」、「市民活動」と「まちづくり」の連携の要としてのサポセンの理念や機能を幹部職員や議員に説明することができたはずであり、指定管理者から提供されているデータを基に反証し、サポセンの果たしている役割と成果を正しく伝える機会を逃したことは、痛恨の至りである。

(課題・問題・提案)

- ・条例改正に関わる事柄やその後の市民からの質問要望等への対応は、さいたま市の「市民活動」「協働」への取り組み姿勢について、おおいに疑問を抱かせるものである。「市民活動とは」「市民とは」という基本に立ち返り、これから豊かなさいたま市を作っていくための、「市民活動」「市民」はどうあるべきか、行政との「協働」はどうあるべきかを、今一度考え、確立する必要がある。
- ・議会から不備を指摘された「規程づくり」や、指定管理再開へ向けての仕組みづくりなどにおいて、「協働」でこれらを進めるのが、その一歩になるのではないか。